

放課後等デイサービス事業所における自己評価結果(公表)

別添

公表：令和 4年 4月 13日

事業所名 ANDY

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
環境・体制整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	○		小学生は同時利用人数も少ないため、学習スペース含め広いスペースを確保している。	・今後も継続していく
	2	職員の配置数は適切である	○		職員1人に対して最大でも2人の児童になるように配置している。	・今後も継続していく
	3	事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされている	○		利用児の体格に合わせて可能な限り設置している。	・階段の昇降の際には、声掛け支援を継続していく ・今後も室内の導線に物を置かない ・追加可能な部分のバリアフリー化を目指す
業務改善	4	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	○		月に1度、社内会議を開き、利用児の状況把握、目標設定、振り返りを行っている。また、毎日事業所内でのミーティングを行っている。	・月に1度の会議は継続していく。さらに必要に応じて臨時の会議も行っていく
	5	保護者等向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	○		年に1度アンケート調査を実施している。集計を行い、結果を職員に明示することで業務・サービス等の改善を図っている。	・アンケートで挙げられた内容を精査し、改善に努めていく
	6	この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公開している	○		ホームページにて公開している。	・今後も継続していく
	7	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている		○		・現状行っていない。今後検討していく。
	8	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	○		定期的に事業所内、外部、社内含め研修を行っている。	・今後も継続していく
適切な支援の提供	9	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成している	○		言語聴覚士による各種検査(WISC、絵画図彙検査など)や、保育士による日々の観察、心理師による各種アセスメントを行い、面談での保護者ニーズを踏まえて計画を作成している。	・今後も継続していく
	10	子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用している	○			・今後も継続していく
	11	活動プログラムの立案をチームで行っている	○		各職員の様々な意見をもとに、利用児それぞれのプログラムを作成している。	・今後も継続していく
	12	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	○		豊富な種類のプログラムを用意し、必要な支援を行っている。一方で、定着を目指すプログラムは長期的に運用している。	・今後も継続していく
	13	平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援している	○		平日はルーティンとして活動の切り替えを意識し、長期休暇中は長時間利用時にしかできない体験をできるように支援している。	・今後も継続していく
	14	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成している	○		心理面も重視し、利用児に寄り添った計画を作成している。他児との関わりも少人数から行えるように支援している。	・今後も継続していく
	15	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	○		朝礼時に、利用児名、利用時間、送迎の有無、前回までの状況の確認、全体スケジュールの確認を行っている。	・今後も継続していく。報連相の徹底を一層図っていく
	16	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	○		個別記録をもとに、次回利用までに全体で状況の共有や支援の振り返りを行い、次回までに支援内容の検討を行っている。	・今後も継続していく
	17	日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	○		記録を通して利用児の状況の確認を行い、気づきを話し合っている。	・今後も継続していく
	18	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断している	○		年に2回定期面談を行っている。それ以外にも送迎時等に都度モニタリングを行い、計画の指針としている。	・今後も継続していく
	19	ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせ合わせて支援を行っている	○		利用児に今必要なプログラムを組み合わせ合わせて支援を行っている。	・今後も継続していく

関係機関や保護者との連携	20	障がい児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	○	児童発達支援管理責任者の他に対象の児童の主な担当となっている職員が参画している。	・今後も継続していく
	21	学校との情報共有(年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等)、連絡調整(送迎時の対応、トラブル発生時の連絡)を適切に行っている	○	保護者に行事予定表をいただき、情報の共有を図るとともに、LINEや電話での連絡調整を行っている。	・今後も継続していく。より綿密に連絡体制を整備する。
	22	医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場合は、子どもの主治医等と連絡体制を整えている	○		・現状、医療的ケアが必要な児童の受け入れをしていないが、今後必要な際は連携を行う。
	23	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めている	○		・その必要性がある児童の受け入れをした場合には行っていく。
	24	学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障がい福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等している	○		・移行する場合には、障害福祉サービス事業所のサービス管理責任者と連携を図り、情報を提供していく。
	25	児童発達支援センターや発達障がい者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	○	宇都宮LDサポートセンターと連携を図り、研修等を行っている。また、系列放課後等デイサービス事業所との共同研修も行っている。	・今後も継続していく
	26	放課後児童クラブや児童館との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある	○		今年度も、新型コロナウイルスの観点から行事自体をあまり行っていないが、可能な範囲で利用児兄弟等も参加できるイベント等は企画していきたい。
	27	(地域自立支援)協議会等へ積極的に参加している	○		・今年度も、参加は新型コロナウイルスの影響で難しかった。今後も状況を見ながら参加したい。
	28	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	○	送迎の際に口頭で今の状況やご家庭での状態の共通理解を図っている。必要に応じて電話やLINEでの連絡や相談も行っている。	・今後も継続していく
保護者への説明責任等	29	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレント・トレーニング等の支援を行っている	○	ご家庭の状況を踏まえ、各相談に対し一緒に対応策を考えている。	・今後、ペアレントトレーニングとしての情報提供も積極的に行なっていきたい。
	30	運営規程、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	○	契約時に面談マニュアルに沿って、チェックしながら行っている。	・今後も継続していく
	31	保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	○	常に傾聴の姿勢を取り、相談しやすいような体制をとっている。	・さらに相談の機会を増やしていきたい。
	32	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	○	保護者会を試験的に行っています。	・新型コロナウイルスの感染状況を見て、今後も小規模な保護者交流会を行えるように計画中。
	33	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応している	○	相談しやすい環境を心がけています。	・直接のご相談だけでなく、電話や、LINE等での相談も継続していく。
	34	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	○	年間カレンダーをお渡しし、保護者様向けLINEでの情報配信も行っている。	・今後は写真等で活動の様子も伝えられるように整備していく。
	35	個人情報に十分注意している	○	スタッフに取り扱いについて研修を行うとともに、鍵付きのロッカーに保管している。	・今後も継続していく
	36	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	○	言葉選びにも十分配慮し、誤解や不安等のない円滑なコミュニケーションが取れるように教育と注意喚起を常に行っている。	・今後も継続していく
	37	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	○		・現状、行っていないが必要に応じて今後検討していく。

非常時等の対応	38	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知している	○			・保護者への周知がまだ徹底されていない。今後は口頭説明だけでなく書面での周知を行う。
	39	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	○		利用児を交え年2回の避難訓練を行っている。散歩にて利用児全員に避難場所の確認を一度は行うようにしている。	・保護者への説明を書面にて行う。
	40	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	○		研修等を行い、常にお互いの監視も行っている。	・さらに啓発を行っていきます。
	41	この場合は場内にて心を持つ身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載している	○		少人数の支援体制なので身体拘束をしない方針で支援を行っている。	・現在、身体拘束を伴う児童の受け入れをしていない。
	42	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	○		入会時にアレルギーの有無の聞き取りを行っている。	・今後も継続していく
	43	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	○		記録として残しており、発生後は直ちに共有している。	・今後も継続していく